

衛生工学衛生管理者コース 受講報告

総合技術センター

分析・解析技術分野 東 知里(Chisato Azuma)

分析・解析技術分野 上田 昭子(Shoko Ueta)

1. はじめに

学生実験の指導や分析機器の維持管理・測定、ドラフト点検などの業務を安全かつ円滑に行っていくため、衛生管理の知識が必要とされる。昨年度、我々は第一種衛生管理者免許を取得したが、更に業務の幅を広げるため、衛生工学衛生管理者免許の認定講習会に参加したので報告する。

衛生工学衛生管理者の主な職務としては、有害なガスや蒸気、粉じんなどが発生する作業場における作業環境の改善や有害因子の抑制、局所排気装置の設備点検などの工学的対策が挙げられる。

2. 講習会概要

1) 衛生工学衛生管理者コース4日間

日程：平成23年9月12日～9月15日

会場：中央労働災害防止協会

大阪安全衛生教育センター

2) 講習内容

□1日目

- ・職業性疾病の管理に関する知識
(職業性疾病に関する基礎知識と健康管理の進め方)
(職業性疾病の発生事例及びその対策)
(教育の方法) 講師：森岡郁晴

化学物質や職場環境による健康障害について具体的な症状を学んだ。業務として有機溶剤や危険物を使用する機会があるため、適切な保護具を使用して安全に業務を行っていききたい。

□2日目

- ・労働衛生工学に関する知識
(作業環境に関する基礎知識 作業環境改

善の具体的な進め方) 講師：山本仁
作業環境に悪影響を与える原因は化学物質だけでなく、熱エネルギー(高温・寒冷)、騒音、振動、病原体などがある。その多くは目に見えず、装置からの継続的な音により健康被害が生じた事例もあるという。

- ・労働衛生工学に関する知識
(作業環境測定の方法及びその評価)

講師：樋上幸一

衛生管理は法遵守型から、工程内のリスクを分析して管理していく自主管理型に変化してきた。

□3日目

- ・労働衛生工学に関する知識
(局所排気装置、全体換気装置、廃液処理装置その他の設備に関する基礎知識)

講師：樋上幸一

排気装置の種類と特徴、構造について学んだ。自主検査の点検項目や検査方法の説明があり、自主検査を行う際に非常に重要な内容であった。この講義の後、実際に排気装置の風量測定を行った。

- ・換気装置性能実験(図1、2、3を参照)

講師：樋上幸一、小川善弘



図1 プッシュプル型フード



図 2 レシーバ式フード



図 3 囲い式フード

各排気装置の風速を測定し、性能確認を行った。化学物質の種類と排気装置の構造によって制御風速が異なることや、風速を正確に測定する技術を学んだ。

プッシュプル型フード、レシーバ式フードなど、職場にはない排気装置を使用でき、貴重な体験であった。

□4日目

- ・労働衛生工学に関する知識
(保護具に関する基礎知識と保守管理)

講師：田北光俊

数種の防毒マスク、粉じんマスク、保護ゴーグルなどの実物を観察した。故障しやすい部分の説明や、誤った使用方法の実例を聞き、日々のメンテナンスと継続的な安全講習が大切だと感じた。

3) 試験

- ・職業性疾病に関する試験
- ・衛生工学衛生管理者試験

3. おわりに

4日間という長期の研修に参加させていただき、ありがとうございました。

非常に幅広い内容の講習でしたが、多くの講師の方のご協力により修了することができました。また、他大学や企業の衛生管理担当者と話す機会があり、情報交換ができました。

4. 参考文献

- ・中災防「労働衛生のしおり」
- ・中災防「局所排気・空気清浄装置の標準設計と保守管理（上）（下）」
- ・社団法人 空気調和・衛生工学会「新版工場排気」